

米山正和前理事長を偲んで

今年の夏は暑さが厳しいうえに、リオオリンピックでの日本勢の活躍もあり、日本列島が一層熱気を帯びておりました。

バドミントン競技においても、女子ダブルスで初の金メダル、女子シングルスでも初の銅メダル獲得と、その躍進ぶりがマスコミにも連日取り上げられ、大いに注目を浴びていたそんな折、8月19日の夜、東北総体のため青森県入りしていた当県協会役員から、米山前理事長が亡くなられたようなとの情報が入りました。前日、久しぶりに彼と会い、普通に言葉を交わしていただけに、言っている意味が分からず、耳を疑いつつ、何べんも繰り返し電話の内容を確認しておりました。しかし、残念ながらその情報は真実であり、誠に無念な結果となりました。

米山君は輝かしい戦歴の持ち主で、高校（日大山形）時代は、インターハイ団体2位、ダブルス優勝、シングルス2位という素晴らしい成績を残し、また、進学した法政大学においても主力選手として活躍、関東大学リーグ戦5連覇やインカレ3位入賞など、数々の栄光を築いてこられました。

その後、和歌山県庁に就職し、全日本教職員大会・国体等で活躍をされましたが、平成4年開催の山形「べにばな国体」を5年後に控えた昭和62年に山形県庁へと招かれ、すぐさま強化部長として抜擢され、その重責を担うこととなりました。かつて強豪県と言われた山形県ではありましたが、その後の全国各県のレベルアップにより、既にその影を潜めており、地元国体で結果を残すということは容易なことではありませんでした。しかし、実直かつざっくばらんな性格の持ち主であり、また実にきめ細かく人の面倒を見る彼のもとで県選手団は徐々にまとまりをみせ、度重なる強化合宿の実施や、全国に張り巡らされた彼の人脈を活用した強化遠征の実施などにより、国体本番では競技別総合成績第3位という結果を残すに至りました。会場となった新庄市体育館が連日沸いたのが、ついこの間の出来事のように思い起こされます。

その後、べにばな国体から一定期間を置いた平成17年から平成26年までの10年間の長きに渡り県協会理事長を務め、県協会運営面では各種規定類の整備を行い、円滑な組織運営を図るとともに、平成25年の全国小学生大会を始めとする各種大会を成功裡に終わらせるなど、その手腕を大いに発揮してこられました。

平成26年に60歳定年退職を迎えられ、これまでの多忙を極めた生活も一段落し、山形市体育協会に再就職し古巣の県体育館へ勤務するとともに、今年からは県ジュニア育成会の会長に就任され、バドミントン王国山形の復活を図るためにも、ジュニア育成のバックアップに力を注ごうと張り切っていた矢先に、63歳という若さで、あまりにも急に逝ってしまったことが残念でなりませんし、本人もさぞや悔しかったことと思います。

今、我々は大きな宝を失ってしまい、大きな喪失感と痛みを感じています。しかし、受け止めなければなりません。米山君と一緒に活動してきたことを我々の誇りとして、米山君のご遺志を、我々一同、しっかりと受け継いでまいりますので、どうか心安らかに眠りください。

米山正和君、本当にありがとうございました。合掌。

平成28年8月

前県協会副理事長 岡田壽紀